

〈総合診療ボックス〉

ギア・チェンジ

—緩和医療を学ぶ二十一会

平方 眞(諏訪中央病院内科)

現状では、医療の世界で「ギア・チェンジ」という言葉を聞いたことのある人は多くないと思う。しかしこの概念は、すべての医療者が常識として知っておくべきである。本書の副題は「緩和医療を学ぶ二十一会(え)」となっているが、癌診療に携わるすべての医療者に一度は読んでほしい内容となっている。

ギア・チェンジとは、病状が変化してそれまでの治療方針のままで進むことが適切でないときや、認識のずれが問題になったときに、車のギア・チェンジをするように、適切なギアに切り替えていくためのコミュニケーションである。

本書は厳選された執筆者と症例によって、ギア・チェンジの必要性和そのポイントがはっきりと認識でき、身に付く構成となっている。日常よく直面する問題が網羅されていると同時に、ギア・チェンジの難しい症例も複数含まれており、日々の診療にすぐに役立つ記述が目立つ。

車は“オートマチック”車ばかりになったが、癌で治ることが望めなくなった場合は、オートマで

走り続けてはいけない。医療者が中心になって、適切なギア・チェンジをお膳立てしていく必要がある。適切なギア・チェンジは医療に対する信頼を、大きく高めてくれる。

ギア・チェンジは、その必要があればいつでも行われるべきであり、日本の現状から考えると緩和医療を受け始めてからギア・チェンジをしたのでは遅すぎる場合が多い。その意味からも、癌診療に携わるすべての医療者に必要なキーワードとして認識されるべきであろう。

ギア・チェンジには治らない見込みを告げるなど、重大な事項が含まれることが多いが、現状ではその認識は不十分である。逃げてしまって問題意識すら感じていない癌治療医は少なくないと思われる。しかし、ギア・チェンジを全くしないで命が終わってしまうことは不幸なことであると、本書を読めば実感していただけるものと思う。

命に直面する問題を抱えたことで必要になるコミュニケーションのポイントと手法を学ぶには絶好の書である。M

● A5 頁 218

定価 3,885 円(本体 3,700 円+税 5%)

[ISBN 4-260-12723-3] 医学書院刊